

第1回 川口市交通体系将来構想推進会議 バス部会

2025.7.8（火） 10:00～12:00

鳩ヶ谷庁舎2階大会議室



1. 見直しの経緯	
(1) 地域公共交通を取り巻く環境変化	3
(2) 川口市コミュニティバスの変遷	4
(3) 川口市の公共交通を取り巻く環境変化	5
2. コミュニティバスの現状と課題	
(1) 市内の公共交通サービス	7
(2) 現在の市内路線バスおよびコミュニティバスの運行状況	8
(3) 市民アンケートの実施	9
3. 再編の考え方（再編基本方針）	12
4. 協定バスルート（案）設定の考え方	14
5. 協定バスルート（案）	16
6. 運行計画（案）	24
7. 路線バスの経路変更等	26
8. 今後のスケジュール	28

目次

1. 見直しの経緯	
(1) 地域公共交通を取り巻く環境変化	3
(2) 川口市コミュニティバスの変遷	4
(3) 川口市の公共交通を取り巻く環境変化	5
2. コミュニティバスの現状と課題	
(1) 市内の公共交通サービス	7
(2) 現在の市内路線バスおよびコミュニティバスの運行状況	8
(3) 市民アンケートの実施	9
3. 再編の考え方（再編基本方針）	12
4. 協定バスルート（案）設定の考え方	14
5. 協定バスルート（案）	16
6. 運行計画（案）	24
7. 路線バスの経路変更等	26
8. 今後のスケジュール	28

1. 見直しの経緯

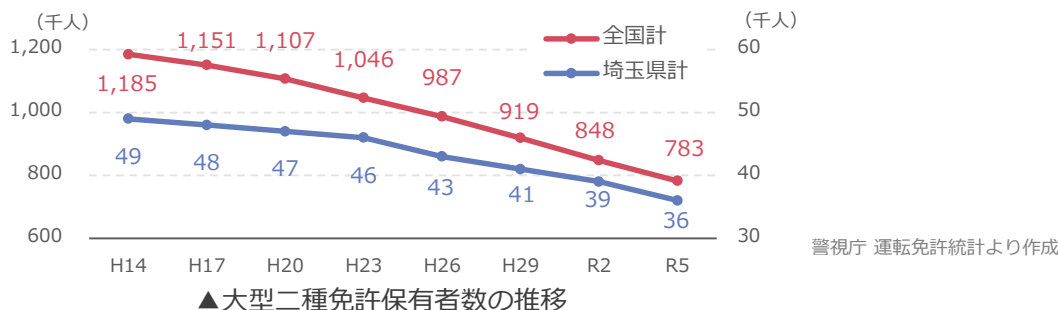
(1) 地域公共交通を取り巻く環境変化

- 運転手の長時間労働を防ぐための告示改正がおこなわれたことによる、2024年問題をはじめ、我が国の公共交通を取り巻く現状は非常に厳しい状況にある。
- 地域交通の維持・改善は喫緊の課題となっている。

バス運転手の不足

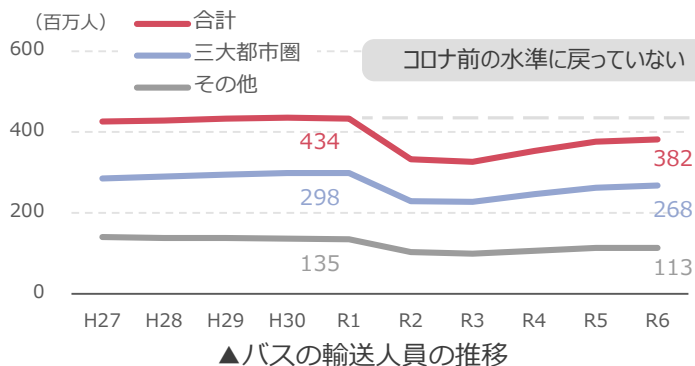
慢性的な運転手不足が問題となっているが、さらにバスやタクシー等の労働時間の厳格化により、**人員不足が顕在化**している。

また、乗り合いバスの運転には2種免許が必要であり、他業界よりも**人材確保が難しい**。



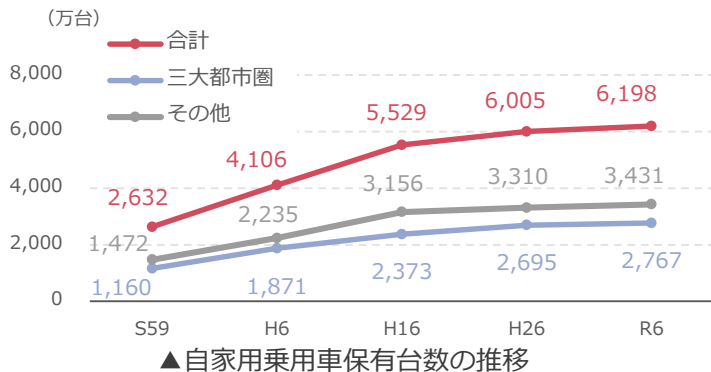
バス利用者の減少

コロナ禍によるバスの利用者減も未だ回復しきれていない。



自家用車依存の拡大

全国的に、自家用車の保有台数は上昇している。



1. 見直しの経緯

(2) 川口市コミュニティバスの変遷

- 川口市コミュニティバス「みんななかまバス」は、平成14年11月から運行を開始し、平成25年12月に旧鳩ヶ谷市循環バス「ミニは〜と」と統合
- 市内全域における公共交通サービスの確保を目的に、少ない乗り換え回数で、**市民生活上必要な拠点施設（市役所・支所、高齢者福祉施設、鉄道駅、拠点病院、大型商業施設等）への移動が可能となるコミュニティバスの運行を実現する**との考え方のもと、現在の運行ルートとなった。

平成14年11月～

- 「みんななかまバス」運行を開始



みんななかまバス（旧）

平成25年12月～

- 「みんななかまバス」と「ミニは〜と」を統合
- 神根循環にて運行間隔の短縮に向けた社会実験の実施



ミニは〜と
(旧鳩ヶ谷市循環バス)

平成28年4月～

- 社会実験の実施路線を神根循環から新郷循環に変更

平成28年12月～

- 神根循環の運行経路見直し（東内野地域内の延伸、附島橋を經由等）
- 戸塚・安行循環の運行経路見直し（藤兵衛新田地域を經由）
- 新郷循環の運行経路見直し（医療センターへの延伸）



みんななかまバス（現行）

令和2年1月～
(現行)

- 青木線の運行経路見直し（生涯学習プラザを經由）
- 芝線と神根循環を統合し循環路線の双方向化
- 戸塚・安行循環の安行吉蔵東経由の新設
- 新郷循環の双方向化

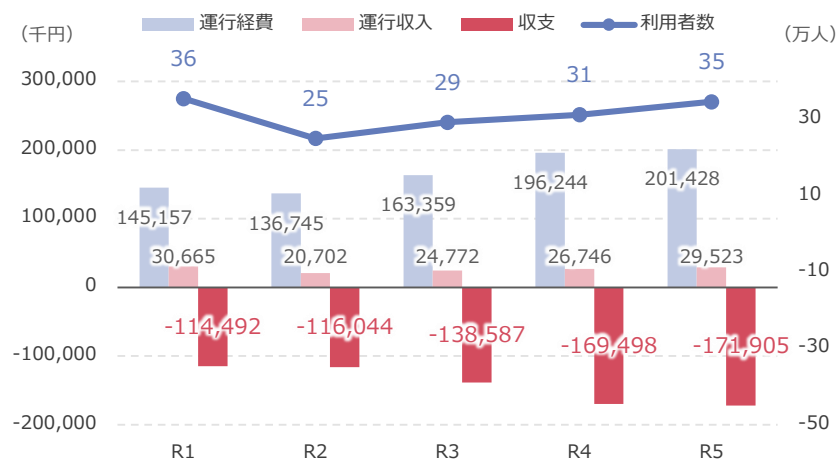
1. 見直しの経緯

(3) 川口市の公共交通を取り巻く環境変化

- 川口市においても、路線バスの廃止や減便を伴うダイヤ改正が複数回行われており、対策を行わない場合は**バスネットワークの維持自体が困難となる恐れ**がある。
- 周辺自治体では、バス事業者から「運転手不足により運行を担えない」との申し出によるコミュニティバスの廃止が相次いでいる。

自治体の財政負担の拡大

みんななかまバスは、収支がマイナスの場合、その全額を市が補助している。利用者数はコロナ禍から回復傾向にあるものの、近年の人件費高騰などから運行経費が上昇し、**収支が悪化**している。



▲みんななかまバスの収支と利用者数

川口市提供データより作成

川口市内における路線バスの廃止・減便状況

廃止（令和6年以降）

- 西川61系統（西川口駅西口～下笹目）
- 川10系統（川口駅東口～新栄団地）
- 竹07系統（竹の塚駅西口～江戸袋循環）

減便

- 令和7年4月現在と令和5年4月現在の平日ダイヤを比較すると、約10%減便している。

周辺自治体でのコミュニティバスの廃止

廃止済み

- 足立区（国際興業、東武バスセントラル、日立自動車交通、新日本観光自動車）
- 朝霞市（国際興業）【ワゴン型輸送に切り替え】

廃止協議申し入れ

- 鶴ヶ島市、坂戸市、富士見市、新座市、朝霞市、和光市（東武バスウエスト）

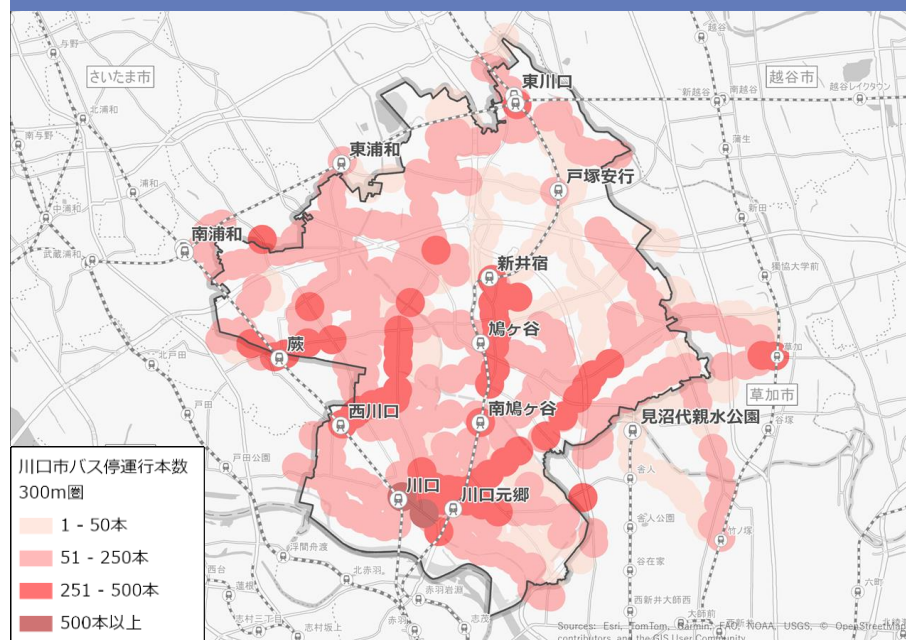
1. 見直しの経緯	
(1) 地域公共交通を取り巻く環境変化	3
(2) 川口市コミュニティバスの変遷	4
(3) 川口市の公共交通を取り巻く環境変化	5
2. コミュニティバスの現状と課題	
(1) 市内の公共交通サービス	7
(2) 現在の市内路線バスおよびコミュニティバスの運行状況	8
(3) 市民アンケートの実施	9
3. 再編の考え方（再編基本方針）	12
4. 協定バスルート（案）設定の考え方	14
5. 協定バスルート（案）	16
6. 運行計画（案）	24
7. 路線バスの経路変更等	26
8. 今後のスケジュール	28

2. コミュニティバスの現状と課題

(1) 市内の公共交通サービス

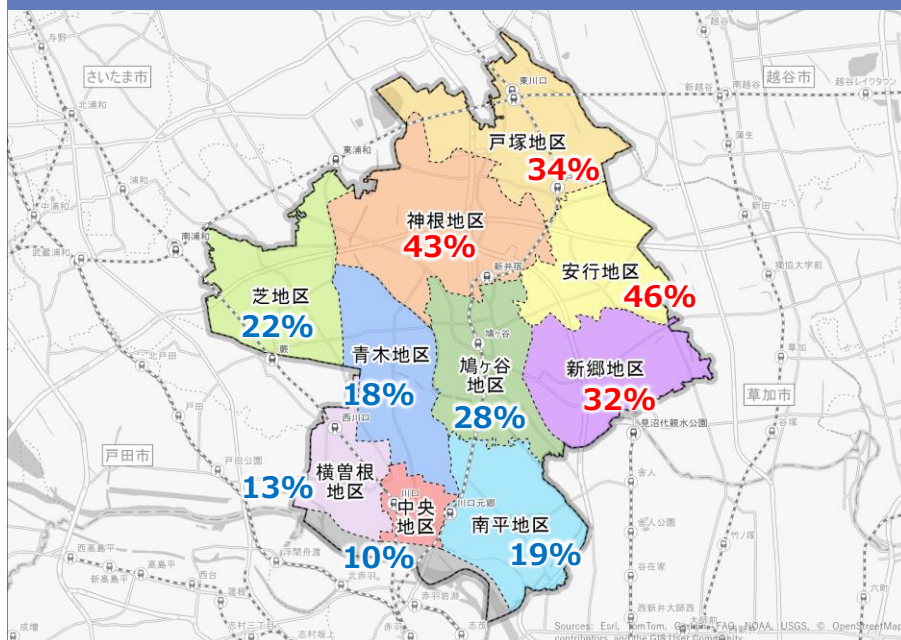
- 市内の路線バスサービスはJR駅を中心とした運行となっており、特に川口駅や西川口駅、蕨駅周辺で運行本数が多くなっている。
- 一方で北東部の戸塚地区や安行地区などでは路線バスの運行本数が特に少ない状況となっている。
- また、バスの運行本数が相対的に少ない地域（戸塚・安行・神根・新郷地区）では自動車の利用が多い。

川口市のバスサービスカバー圏（コミュニティバス除く）



GTFSデータ（令和3年時点）より作成

地区別 自動車分担率



第6回（H30）東京都市圏PT調査より作成

2. コミュニティバスの現状と課題

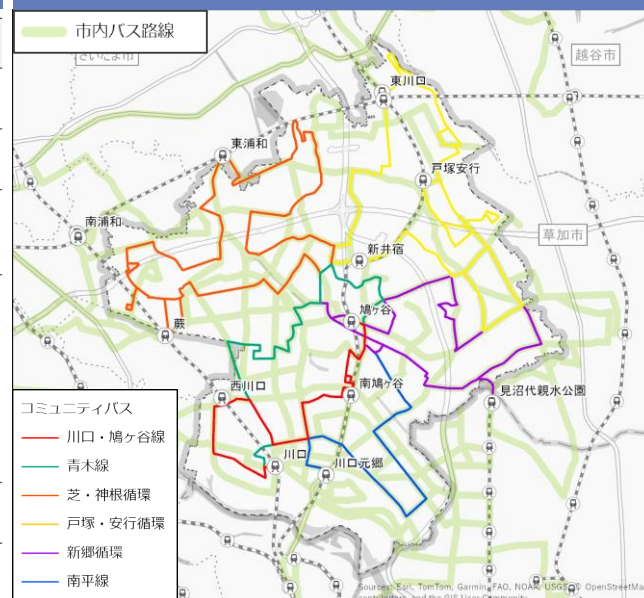
(2) 現在の市内路線バスおよびコミュニティバスの運行状況

- 現在のコミュニティバスは6路線で運行され、**市内のほぼ全域を走行**している。
- コミュニティバスの一部の系統は市民生活上必要な拠点施設（市役所・支所、高齢者福祉施設、鉄道駅、拠点病院、大型商業施設等）を経由する経路となっているため、**系統延長が長い**。
- また、市内のコミュニティバスが走行する区間は**路線バスとの重複区間や並行区間**も多く存在する。
- さらに、コミュニティバスと路線バスの運賃体系が異なるため、同じバス停間でも運賃が異なり、路線バスとコミュニティバスで**競合**が生じている。

コミュニティバス運行概要

系統名	延長	運行間隔	起終点
川口・鳩ヶ谷線	約10km	概ね120分に1本	川口駅西口⇄鳩ヶ谷駅東口
青木線	約12km		川口駅西口⇄鳩ヶ谷駅東口
芝・神根循環	約25km		川口市立医療センター発着
戸塚・安行循環 (横道経由)	約20km	概ね210分に1本	川口市立医療センター発着
戸塚・安行循環 (安行吉蔵経由)	約20km		
新郷循環	約21km	概ね120分に1本	見沼代親水公園駅発着
南平線	約10km		川口元郷駅⇄鳩ヶ谷駅東口

コミュニティバスルート



国土数値情報より作成

川口市内を運行するバスの運賃体系

路線バス：距離制（初乗り220円）

コミュニティバス：100円/回

2. コミュニティバスの現状と課題

(3) 市民アンケートの実施

- 市民の日常移動の実態及びバス利用の実態を把握することを目的として、アンケート調査を実施した。
- 運行間隔が概ね2時間間隔のため「**利用したい時間の運行がない**」という意見や、系統延長が長い「**行きたい場所まで時間がかかる**」という意見が多い。

■ 実施概要

◆ 実施期間

令和6年7月18日（木）～8月9日（金）

◆ 調査方法

配布：郵送、・回収：郵送またはインターネットによる回答

◆ 対象者

川口市の住民登録者5,000人（15歳以上）

◆ 回収数

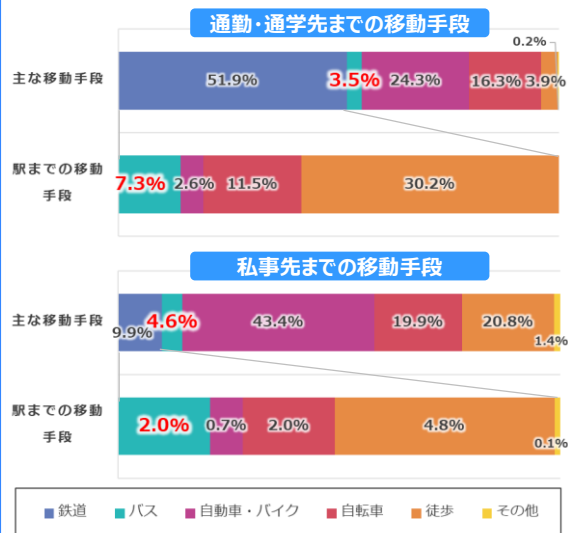
郵送：826件、インターネット：758件
合計：1,584件（回収率：31.7%）

【アンケート回答者の個人属性】

- アンケート回答者は、市民の人口構成に比べ、女性及び中高年（45歳以上）の割合が多く、男性及び若年層（特に35歳未満）の回答が少なかった。
- また、75%以上が自動車の運転免許を持っているが、自分専用の自動車がある人は30%程度

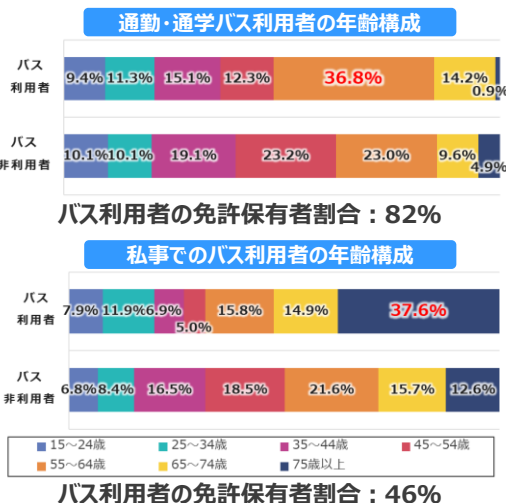
【日常移動における利用交通手段】

- 日常移動におけるバスの利用者の割合は、通勤・通学では約11%、私事（買物や通勤など）では、約7%となっている。



【バス利用者の特徴】

- 通勤・通学では現役世代の利用が中心であるが、55～64歳の利用が多い
- 私事では75歳以上の高齢層の利用が多い
- 通勤・通学では自動車免許保有者もバスを利用するが、私事では自動車免許保有者の利用が減少

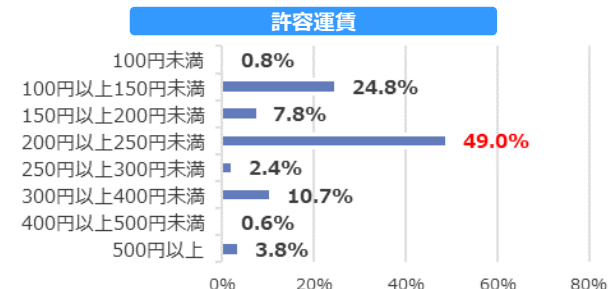


【バスについての課題認識】

- 「利用したい時間の運行がない」、「行きたいところに行ける路線がない」、「行きたい場所まで時間がかかる」という意見が多い。
- 一方で、現状以上運賃を支払っても良いという回答をした人は約75%であり、バスサービスの維持に負担増を許容する人は多い。

コミュニティバスの改善点または利用しない理由

利用したい時間の運行がない（20.2%）、行きたいところに行ける路線がない（18.9%）、最寄りのバス停が遠い（13.7%）、行きたい場所まで時間がかかる（12.2%）、利用方法が分かりにくい（10.2%）、みんななかまバスを知らない（9.3%）、バス停の待合環境が悪い（2.0%）、運賃が高い（0.5%）、社内環境が悪い（0.3%）、その他（12.8%）



2. コミュニティバスの現状と課題

コミュニティバス課題のまとめ

- ◆ 1路線あたりのルートが長大化しており、目的地までの速達性が低い。
- ◆ 運行間隔が概ね120分～210分間隔のため、利便性が低い。
- ◆ コミュニティバス同士の乗継ぎを考慮していないため、待ち時間が長い。
- ◆ 路線バスとの競合区間が複数あり、運賃が路線バスより低額であることから、路線バスの撤退を招く要因となっている。
- ◆ 運行評価体制が未整備である。

1. 見直しの経緯	
(1) 地域公共交通を取り巻く環境変化	3
(2) 川口市コミュニティバスの変遷	4
(3) 川口市の公共交通を取り巻く環境変化	5
2. コミュニティバスの現状と課題	
(1) 市内の公共交通サービス	7
(2) 現在の市内路線バスおよびコミュニティバスの運行状況	8
(3) 市民アンケートの実施	9
3. 再編の考え方（再編基本方針）	12
4. 協定バスルート（案）設定の考え方	14
5. 協定バスルート（案）	16
6. 運行計画（案）	24
7. 路線バスの経路変更等	26
8. 今後のスケジュール	28

3. 再編の考え方（再編基本方針）

- 市内全域のバスネットワークを維持するため、令和7年3月に**コミュニティバス再編基本方針**を策定した。
- これは、運行の効率化を図りつつ、利用者の利便性向上等の現状の課題解決を図ることを目的としている。
- 再編にあたって、路線バスとの一体的運用を図るために、**路線バスとコミュニティバスとの区別を廃する**。
- コミュニティバスについては、市と運行事業者との運行協定による路線バス「**協定バス**」として運行する。



路線バスとコミュニティバスの 一体的運用

バスネットワークの役割分担の徹底

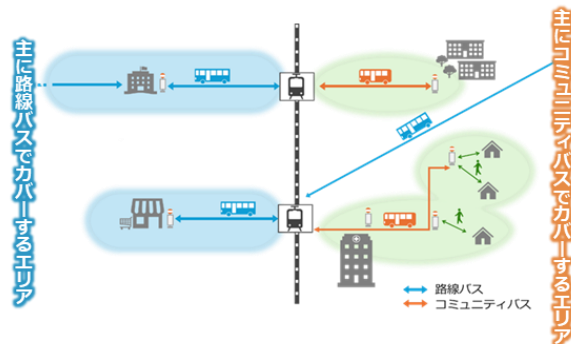
- 路線バスとコミュニティバスを一体的に運用

コミュニティバスでカバーするエリア

- 路線バスの運行が困難、運行本数が少ない地域へ集中

運賃

- 路線バスと一体的な運賃制度



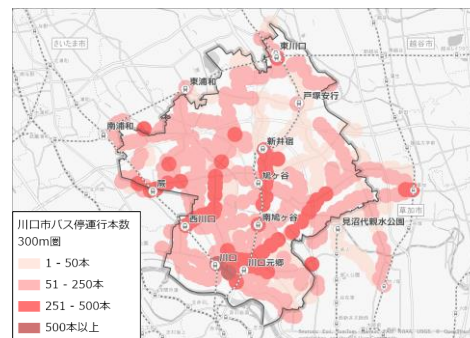
市民の利用実態に即した 運行サービスの検討

鉄道駅の交通結節機能の強化

- 運行拠点を鉄道駅

市域全体におけるバスの利便性向上

- 現行の長大化するルートや運行間隔の短縮



GTFSデータ（令和3年時点）より作成



将来的な持続性の確保

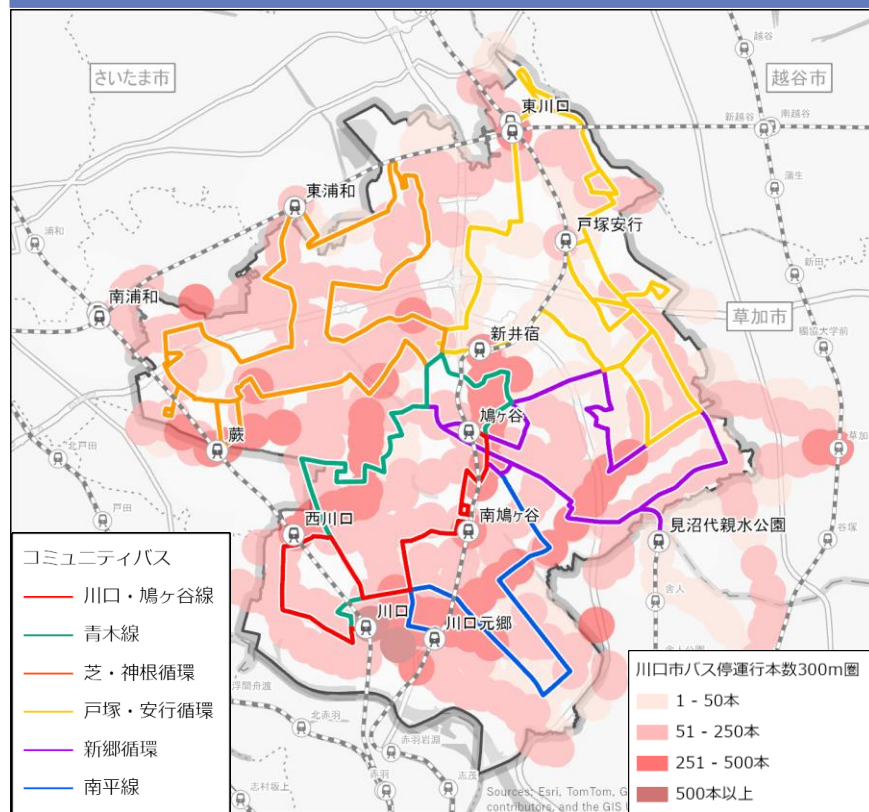
- 再編後の評価指標の構築

1. 見直しの経緯	
(1) 地域公共交通を取り巻く環境変化	3
(2) 川口市コミュニティバスの変遷	4
(3) 川口市の公共交通を取り巻く環境変化	5
2. コミュニティバスの現状と課題	
(1) 市内の公共交通サービス	7
(2) 現在の市内路線バスおよびコミュニティバスの運行状況	8
(3) 市民アンケートの実施	9
3. 再編の考え方（再編基本方針）	12
4. 協定バスルート（案）設定の考え方	14
5. 協定バスルート（案）	16
6. 運行計画（案）	24
7. 路線バスの経路変更等	26
8. 今後のスケジュール	28

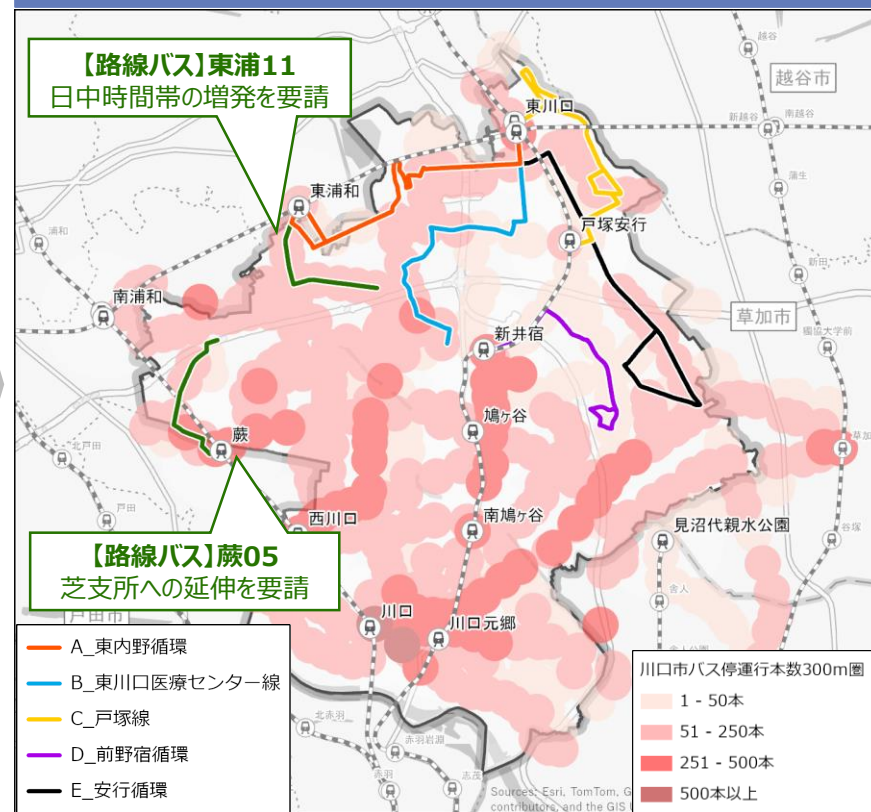
4. 協定バスルート（案）設定の考え方

- ① **路線バスの運行が困難な地域や運行本数が少ない地域に集中させる。**
- ② 運行拠点を鉄道駅とする。
- ③ バスの運行が可能な道路幅員を考慮する。
- ④ 運行間隔を概ね60分程度とする観点から、**1便あたりの所要時間を45分程度とする。**
- ⑤ 現行のコミュニティバスの利用者数を踏まえ、**一定のニーズが見込まれるエリアでの運行とする。**

現行のコミュニティバスルート



協定バスルート（案）



1. 見直しの経緯	
(1) 地域公共交通を取り巻く環境変化	3
(2) 川口市コミュニティバスの変遷	4
(3) 川口市の公共交通を取り巻く環境変化	5
2. コミュニティバスの現状と課題	
(1) 市内の公共交通サービス	7
(2) 現在の市内路線バスおよびコミュニティバスの運行状況	8
(3) 市民アンケートの実施	9
3. 再編の考え方（再編基本方針）	12
4. 協定バスルート（案）設定の考え方	14
5. 協定バスルート（案）	16
6. 運行計画（案）	24
7. 路線バスの経路変更等	26
8. 今後のスケジュール	28

5. 協定バスルート（案）

- 現在検討中の協定バスルート（案）は、以下のA～Eの5路線

	路線名（仮称）	運行形態	延長	運行区間
A	東内野循環	循環型	約12.4km	東川口駅南口～附島橋～東川口駅南口
B	東川口駅医療センター線	ピストン型	約5.9km	東川口駅南口～川口市立医療センター
C	戸塚線	ピストン型	約13.8km	東川口駅南口～戸塚安行駅
D	前野宿循環	循環型	約7.9km	新井宿駅～前野宿～新井宿駅
E	安行循環【実証運行】※	循環型	約12.7km	東川口駅南口～安行原団地～東川口駅南口

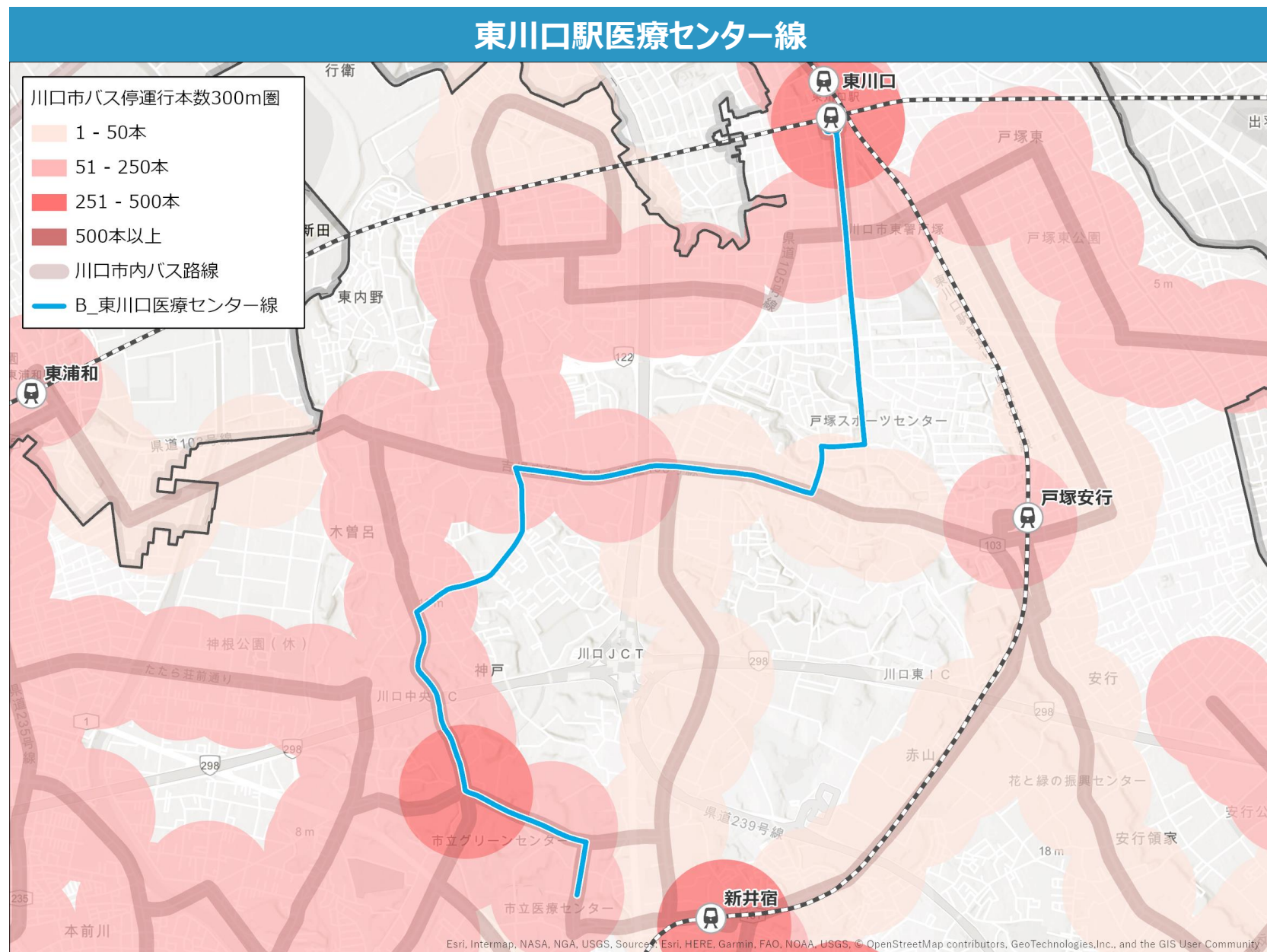
※安行循環については、P14「協定バスルート(案)設定の考え方」①④⑤の要件を満たさないが、利用者から運行を求める要望が多数寄せられていることから、**実証路線**として運行する。

なお、運行期間及び運行継続の判断に関する指標については、別途検討するものとする。

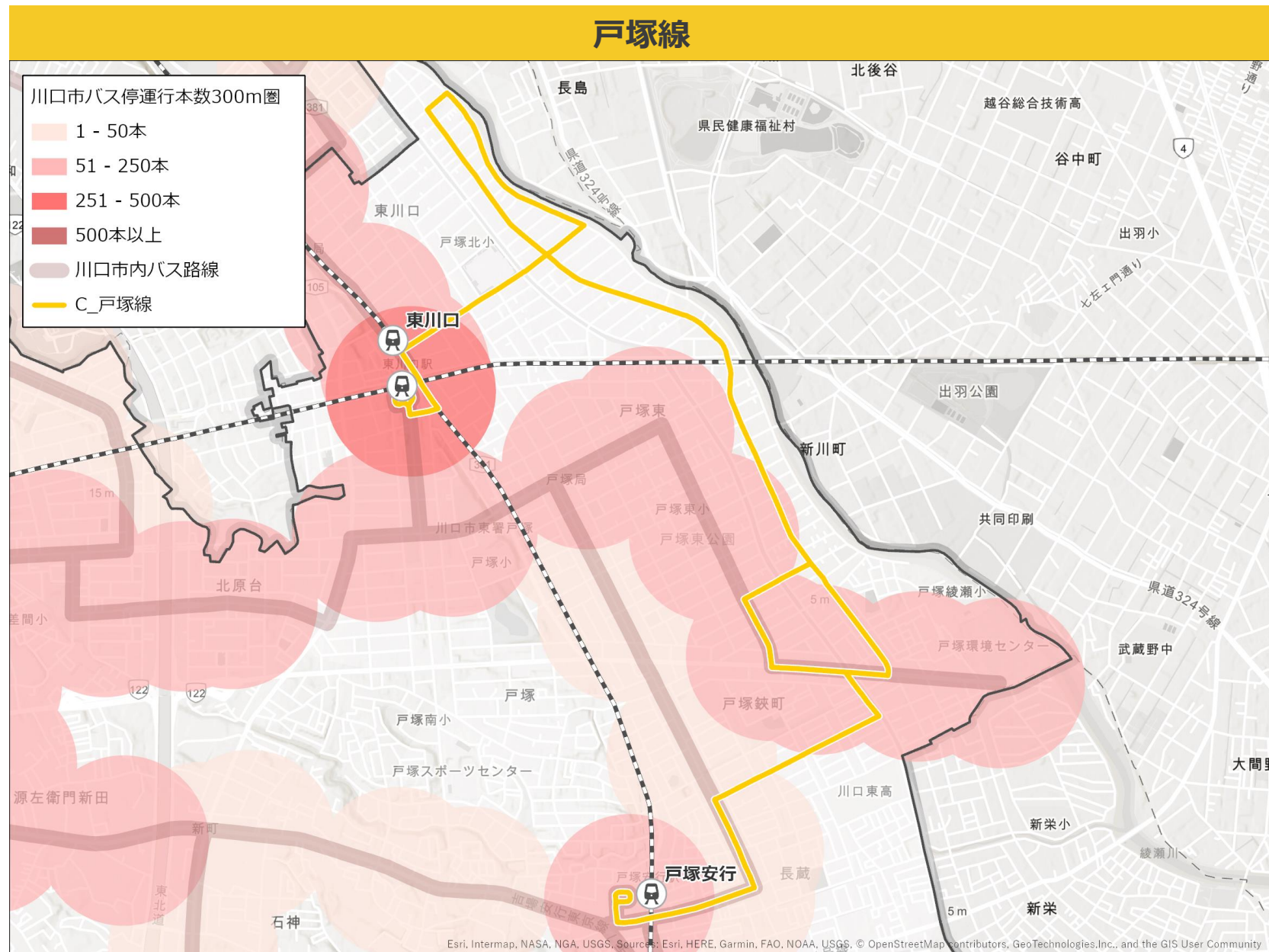




5. 協定バスルート（案）



5. 協定バスルート（案）







1. 見直しの経緯	
(1) 地域公共交通を取り巻く環境変化	3
(2) 川口市コミュニティバスの変遷	4
(3) 川口市の公共交通を取り巻く環境変化	5
2. コミュニティバスの現状と課題	
(1) 市内の公共交通サービス	7
(2) 現在の市内路線バスおよびコミュニティバスの運行状況	8
(3) 市民アンケートの実施	9
3. 再編の考え方（再編基本方針）	12
4. 協定バスルート（案）設定の考え方	14
5. 協定バスルート（案）	16
6. 運行計画（案）	24
7. 路線バスの経路変更等	26
8. 今後のスケジュール	28

6. 運行計画（案）

- 運行開始時期は、令和8年秋頃を予定している。

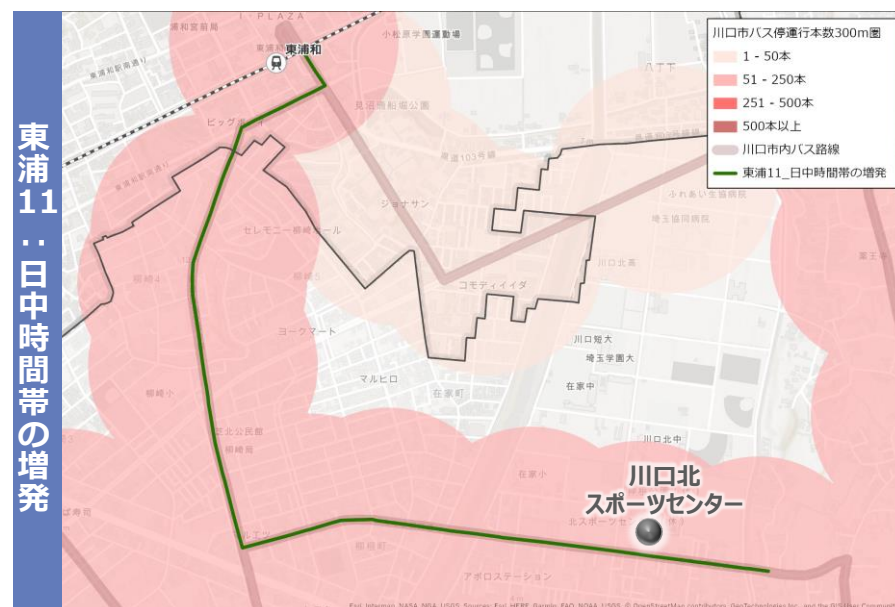
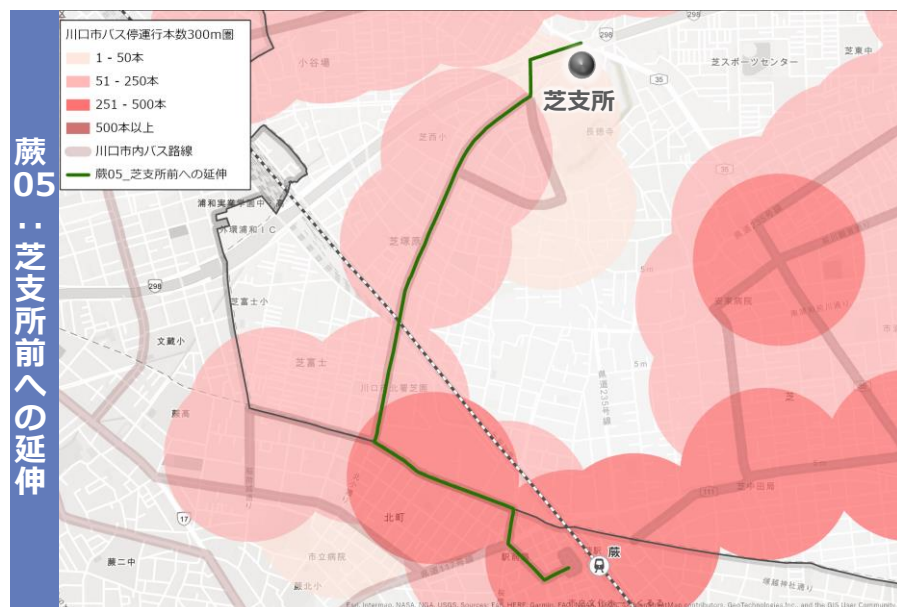
	現行（コミュニティバス）	再編後（協定バス）
運行事業者	国際興業株式会社	現行と同じ
運休日	日曜、祝日、休日、年末年始（12/29～1/3）	運行事業者の路線バスと同一 （旧盆期間、年末年始は調整中）
運行間隔	概ね120分～210分間隔	概ね60分間隔 （実証運行は調整中）
運行時間帯	6時台～20時台	7時台～18時台（調整中）
運賃（大人）	1乗車100円の均一運賃制	運行事業者の路線バスと同一 （初乗り220円の対キロ区間運賃制※）
定期券 1日乗車券	利用不可	利用可
車両	コミュニティバス専用車両	運行事業者の路線バス車両
運行補助	運行経費の総額から運賃収入及び 広告収入を控除した額を補助	現行と同じ
評価体制	なし	交通体系将来構想推進会議バス部会において定期的に運行評価を行い、必要に応じて見直しを行う

1. 見直しの経緯	
(1) 地域公共交通を取り巻く環境変化	3
(2) 川口市コミュニティバスの変遷	4
(3) 川口市の公共交通を取り巻く環境変化	5
2. コミュニティバスの現状と課題	
(1) 市内の公共交通サービス	7
(2) 現在の市内路線バスおよびコミュニティバスの運行状況	8
(3) 市民アンケートの実施	9
3. 再編の考え方（再編基本方針）	12
4. 協定バスルート（案）設定の考え方	14
5. 協定バスルート（案）	16
6. 運行計画（案）	24
7. 路線バスの経路変更等	26
8. 今後のスケジュール	28

7. 路線バスの経路変更等の要請

- コミュニティバスが運行されなくなる地域の路線バスの一部経路変更や増発の要請を行う。

系統名	運行区間	内容
蕨05	蕨駅西口～芝支所入口～蕨駅西口	芝支所前への 経路変更（延伸）
東浦11	東浦和駅～神根福祉センター	日中時間帯の 増発



GTFSデータ（令和3年時点）および国土数値情報より作成

1. 見直しの経緯	
(1) 地域公共交通を取り巻く環境変化	3
(2) 川口市コミュニティバスの変遷	4
(3) 川口市の公共交通を取り巻く環境変化	5
2. コミュニティバスの現状と課題	
(1) 市内の公共交通サービス	7
(2) 現在の市内路線バスおよびコミュニティバスの運行状況	8
(3) 市民アンケートの実施	9
3. 再編の考え方（再編基本方針）	12
4. 協定バスルート（案）設定の考え方	14
5. 協定バスルート（案）	16
6. 運行計画（案）	24
7. 路線バスの経路変更等	26
8. 今後のスケジュール	28

8. 今後のスケジュール

【バス部会】

第2回 8月27日（水）10時～ @鳩ヶ谷庁舎2階大会議室

第3回 11月頃開催予定

【住民説明会】

9月下旬～10月上旬開催予定

【パブリック・コメント】

10月実施予定